Osaka University Knowledge Archive

Title	World Wide Views in JAPAN : 日本からのメッセージ : 地球温暖化を考える
Author(s)	
Citation	
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/12910
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

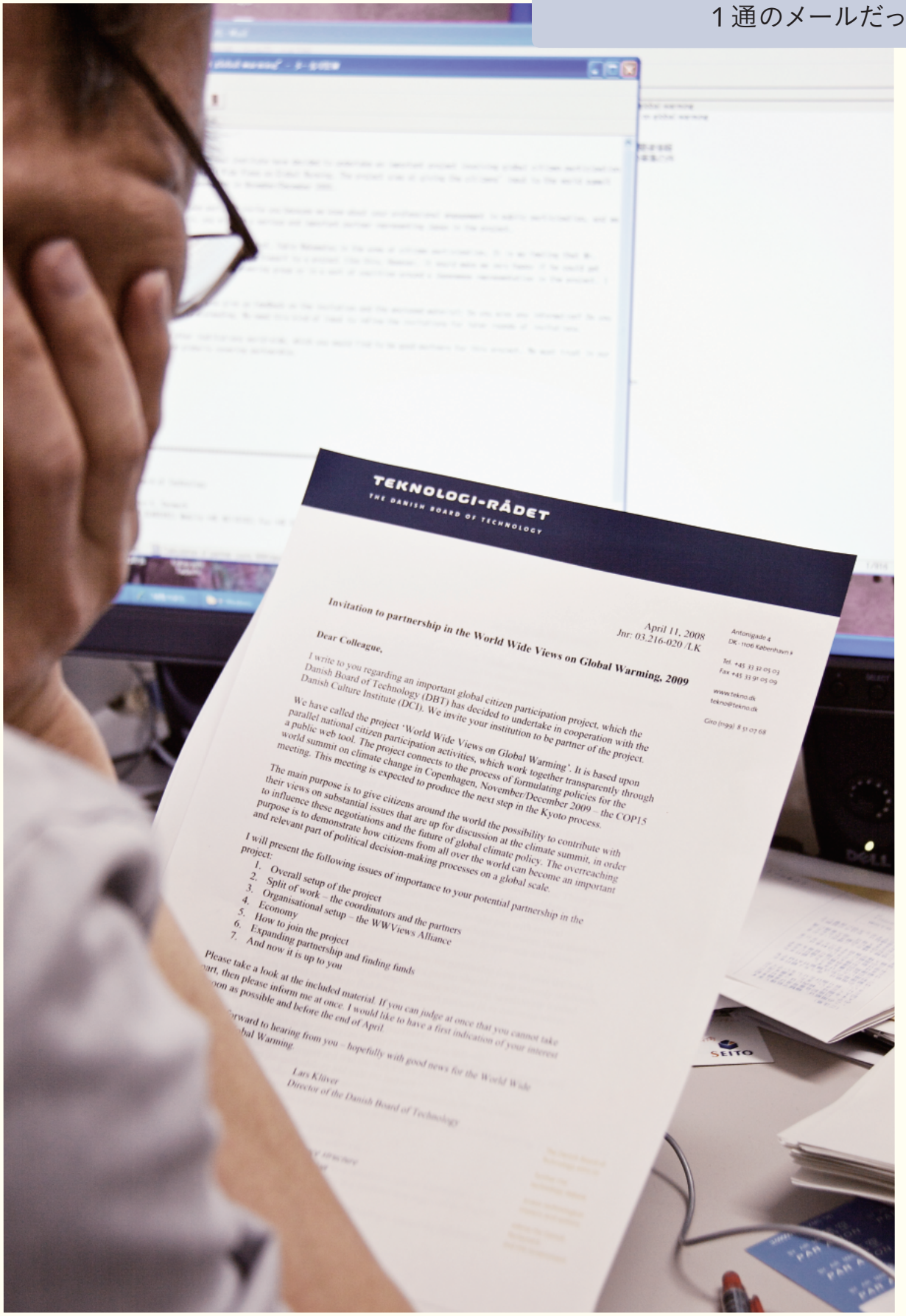
日本からのメッセージ：地球温暖化を考える

World Wide Views
in JAPAN

1

フォトファイルズ

はじまりはデンマークからの
１通のメールだった ――。



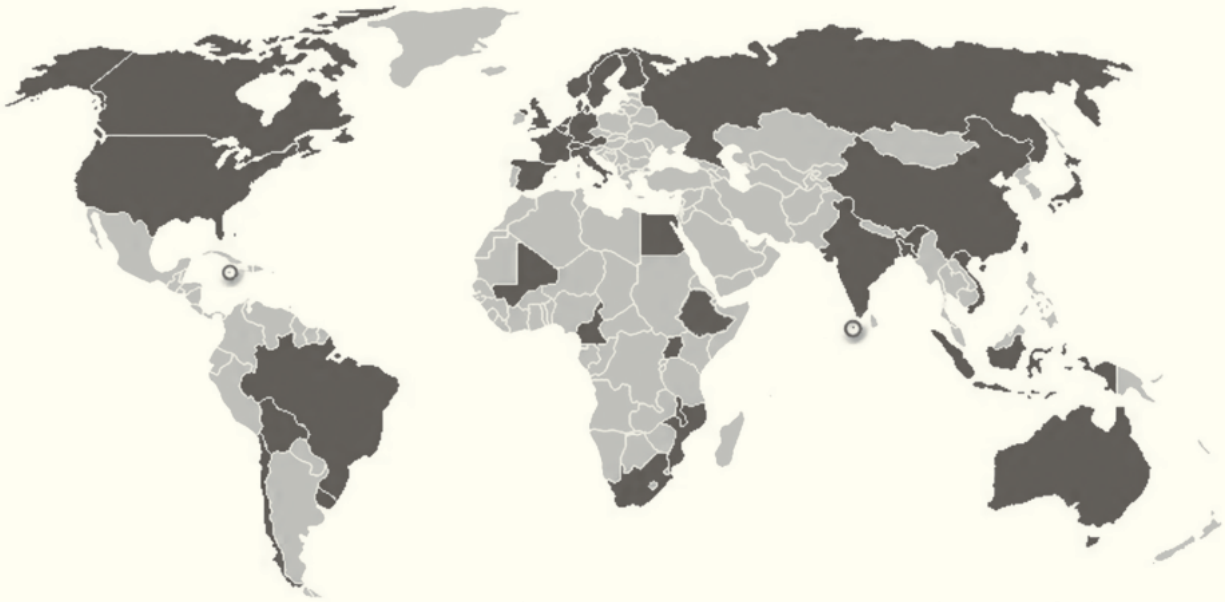
Introduction

2009年9月26日、デンマーク技術委員会(Danish Board of Technology : DBT)の呼びかけで、世界38カ国44の国と地域で、約4000人の「ふつうの人々」が、地球温暖化問題について議論を行うWorld Wide Viewsが開催されました。

このフォトファイルズは、World Wide Views開催の経緯と、当日の様子・結果を記録集として写真を中心にとりまとめたものです。

約1年半におよんだWorld Wide Viewsプロジェクトのストーリーを、皆さんと共有できればと願っています。

WWViews参加国



World Wide Views（WWViews）について

2009年12月、デンマーク・コペンハーゲンにおいて「COP15（気候変動枠組条約締約国会議）」が開催されました。

World Wide Views（WWViews）は、COP15の交渉に当たる政府関係者に対して世界の市民の声を届けるために行われた市民会議です。世界38カ国44の国と地域で、約4000人の市民が参加しました。

WWViewsは、世界の市民が、同じ情報資料に基づき、同じ問いについて、同じ手法を用いて議論する試みで、2009年9月26日に世界の国と地域において一斉に開催されました。テーマは“今後の地球温暖化問題に対して世界がどのような目標を立て、どのように問題の克服に取り組むべきか”です。

WWViewsは、専門家ではない「ふつうの人々」が相互に建設的な対話を行い、その場において熟慮することを通じて、今後の気候温暖化対策に関する世界各国の市民の意見を取りまとめ、COP の場に提供しようとしました。アンケート調査による世論の把握ではなく、正確な資料や情報を踏まえた議論に基づく輿論の形成の可能性を模索する試みなのです。

日本でも、2009年9月26日に京都議定書を生んだ京都市において、World Wide Views in JAPANが開催されました。

世界各地で行われたWWViewsの様子

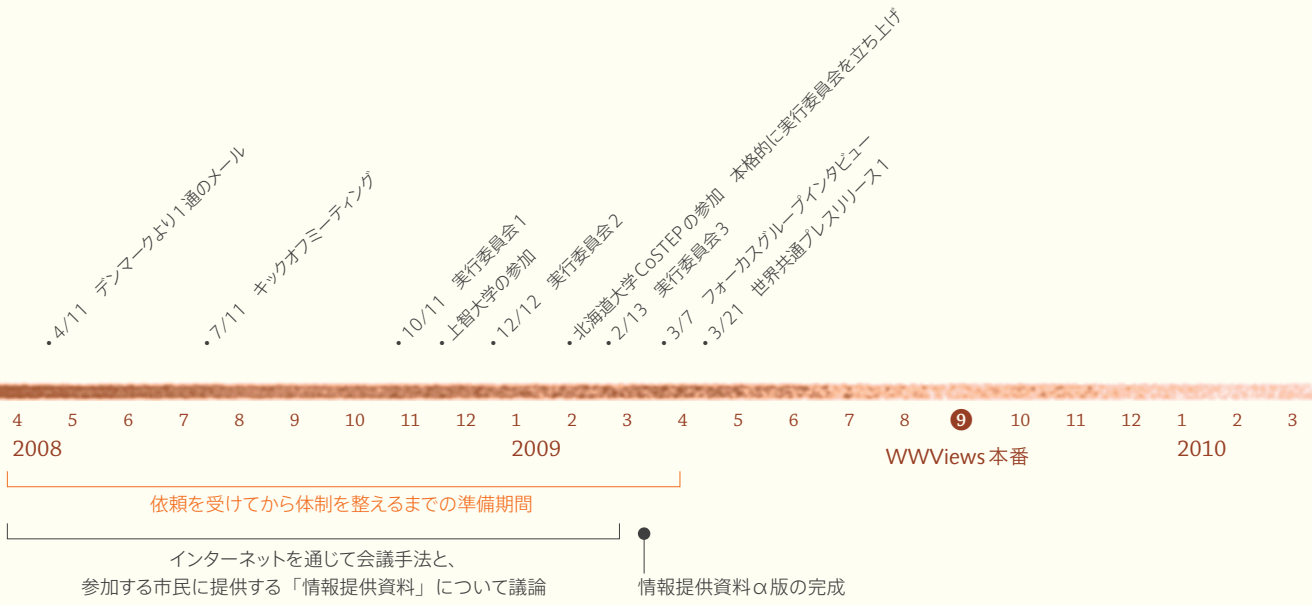
–Story 1–

2008.4-2009.3

最初の１年は、
体制づくりに東奔西走。

WWViewsに日本も参加すると決めたものの、資金調達、体制作りと問題は山積していました。最初の１年は、各所に人的・資金的支援をお願いすることと、会議の枠組みや市民に提供する資料に関する議論で、あっという間に過ぎ去って行きました。

WWViews全体の流れと
この時期の主なトピック



・2008年 4月～

体制づくりに東奔西走

インターネットを通じて、WWViewsの手法、市民に提供される情報についての議論が活発に行われました。資料を一旦日本語に翻訳し、国内の協力者で議論し、また英語に翻訳してコメントするという作業は、私達に当初予想していた以上のマンパワーを要求しました。

CSCDのスタッフを集め、実行委員会立ち上げの準備が始まった。（正面：小林傳司実行委員長）

会場となった「京都市勧業館みやこめっせ」

・2008年 9月

会場探しも一苦労

国内で参加する市民100人が一斉に議論できる会場探しも一苦労。予算・アクセス・会場の広さ・ネット環境等さまざまな条件を考慮して、京都市勧業館みやこめっせに決定したのが、開催から約1年前の2008年9月。

Side Story —— 実施主体スタッフの動き

2008年7月　キックオフミーティング

まずは、大阪大学コミュニケーションデザイン･センター（CSCD）スタッフを中心に体制づくり。気候変動問題の専門家にも合流してもらい、本格的な議論をスタート。

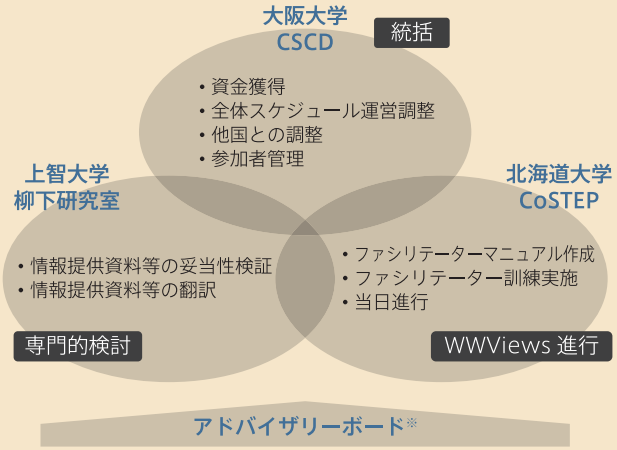
2008年11月　上智大学の参加

気候変動問題の専門家チームとして、上智大学柳下研究室の協力を得られることになり、実行委員会の立ち上げに向けた打ち合わせが続く。

2009年2月　北海道大学CoSTEPの参加

会議の進行（ファシリテーション）の専門家チームとして、北海道大学科学技術コミュニケーター養成ユニット（CoSTEP）の協力を得られることになり、本格的に実行委員会を立ち上げ。

WWViewsを運営した人々



※アドバイザリーボードメンバーについてはP31参照。

6名の方にお集まり頂き、フォーカスグループインタビューを行いました。

• 2009年 3月7日

フォーカスグループインタビュー

3月上旬、WWViews当日に使用する情報提供資料と、参加者の方々が議論するテーマ（設問）の第1次案が完成しました。この資料やテーマで本当に議論できるのか、20代～60代の男女各3名、計6名の方にお集まり頂き、グループインタビューを行いました（日本を含めた6カ国で同様のインタビューを実施）。

結果は「こんな長い資料は読めない！」「専門用語だらけでわかりにくい」「市民感覚とは乖離しすぎている」と批判続出。

結果をすぐにとりまとめ、英訳の上、DBTに送信。インターネットを通じた議論が更に続きます。

• 2009年 3月中旬

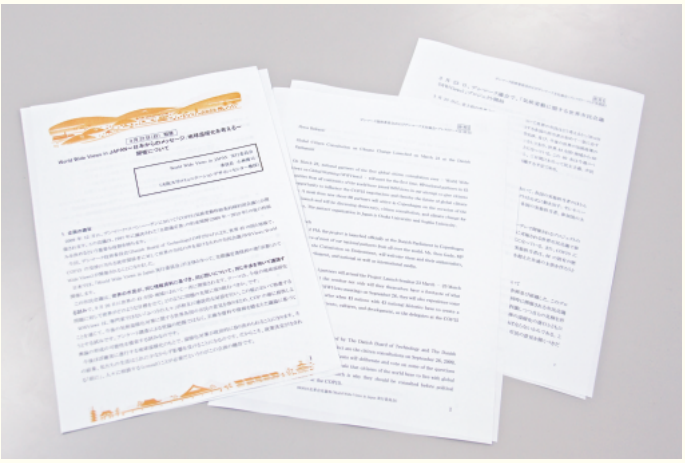
関係省庁への事前説明

世界共通プレスリリースに先立ち、外務省、環境省、経済産業省、内閣官房への事前説明を行いました。

• 2009年 3月19日

環境省記者クラブにて、記者会見

環境省記者クラブにて、記者会見を行いました。（解禁日：3月22日）。



• 2009年 3月22日

世界共通プレスリリース

参加予定国すべてで同時にプレスリリースが行われました。

WWViewsプロジェクトがいよいよ本格的にスタートです。

合宿に集う各国の人々

• 2009年 3月23日～25日

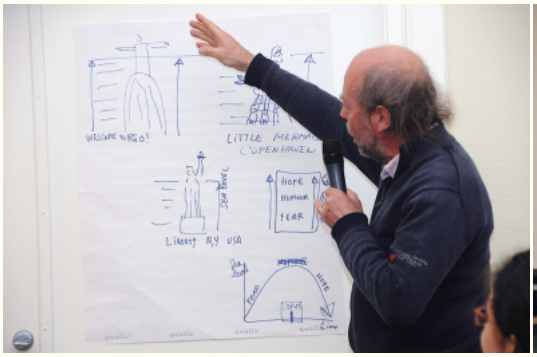
参加国合同合宿 in コペンハーゲン

3月23日～25日にコペンハーゲンにて、参加国の合同合宿が行われました。プロジェクトに参加予定（2009年3月当時）の46各国のうち44カ国・53機関から87名が出席しました。

初日には、WWViewsを主導するDBT（デンマーク技術委員会）の組織や使命、参加国の紹介の後、気候変動問題に関するレクチャーが行われました。その後、デンマーク国会において、ステン・ガーデ環境と地域計画委員会委員長およびボー・リデガード環境問題担当政務次官の挨拶を受けて、本プロジェクトの正式な開始が宣言されました。

2日目には、本番の市民会議のシミュレーションとして、市民が討議する質問項目案の一部を用いて、このセミナー参加者自身が実際に討議を行い、ファシリテーターの役割や会議運営の実務について議論を行いました。

最終日には、各参加国でメディアにどのように関心をもってもらうか、COP15政府代表団とどのような関係を作るかなどについて、活発な質疑応答が行われました。



各国の実行委員が市民役になってロールプレイ（1）

各国の実行委員が市民役になってロールプレイ（2）

デンマーク国会前で記念撮影